



PIETORO bldg.

ピエトロビル

中央区天神3丁目4-5

2001年12月完成 / 所有者: (株)ピエトロ

設計者: (株)野田企画・(株)三博紀之建築工房・清水建設(株)九州支店一級建築士事務所

施工者: 清水建設(株)九州支店

受賞作は、大小様々なビルが立ち並ぶ昭和通り沿いに昨年完成したばかりの建物である。都心の刺すような刺激的空間の中で、人々はついつい早足になってしまうのだが、この建物の公開空地となっている前庭で、ふっとテンポが変わる。季節感を演出する広葉樹と自然石を使った彫刻ベンチ。建築に視線を移せば、イタリアンテイストのすーっと空に伸びるシンプルな外観。全体に、食を扱う企業本社ビルらしく清潔感に包まれている。一軒のスパゲッティ専門店からスタートした企業が創業の地にこだわって建てた本社ビルと聞く、控えめな看板やサインのあしらいにも、押しつけがましきのない清澄しい景観を都心に連れてきてくれた建物である。

(審査委員 今村 洋子)



FUKUOKA CITY LITERARY MUSEUM

福岡市文学館(赤煉瓦文化館)

中央区天神1丁目15-30

1909年2月完成 / 所有者: 福岡市

設計者: 辰野金吾・片岡安

施工者: 清水組(現-清水建設(株))

今回、実施要領が一部改正され、文化財指定を受けたものも対象に加えられるようになった。それに伴っての受賞である。建設当初の写真を見ると、西中島橋のたもとの角地にあつて、一際大きな建物だったことがわかる。一見複雑な平面計画も、ドームの載った塔も、街角をデザインすることが意識されてのことだ。それが現在は、拡幅された道路と高いビルに囲まれたむしろ愛らしい建物となっている。そして、福岡という都市の「記憶」としてあの場所になくしてはならないものだ。それは単に古いということではなく、世代を越えて市民に認知され続けてきたことによる。福岡の街がどんどん変わっていく。福岡市文学館は、その移り変わりを示すインジケータのような存在だ。それは同時に、人々のための都市空間を担うことをもはや忘れたかのような昨今の建築への警鐘でもある。

(審査委員 菊地 成明)

